

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION



NO.105

www.jsaf.or.jp



オレオが
つなげてくれる！



Twist

回してはまず！



Scoop

クリームをすくって！



Dunk

牛乳に浸す！



ヤマザキナビスコ

ナビスコ及びオレオはモンデリーズ・インターナショナル グループにより使用許諾されている商標です。

JSAFからのメッセージ

一人でも多くのメンバーが登録を

日頃よりセーリングの普及・発展にご尽力いただき、ありがとうございます。JSAF 会員登録の時期がまいりました。同じセーリングスポーツを楽しむ仲間として、ぜひ会員登録を基本に、何ができるかをともに考えていきたいと思います。

前号で2020東京オリンピック・パラリンピック開催決定の喜びをお伝えいたしました。これに関連してIOCが提唱するオリンピックの価値、卓越 excellence、尊敬 respect、友情 friendship を紹介いたします。

セーリングスポーツの場合、卓越とは、昨年より今年、先月より今月と各セーラーのシーマンシップの質を高め、競技中にしっかりと戦えること。相手に勝つことだけでなく自分自身を磨くよう努力すること。

尊敬とは、セーラー同士が競技規則を守り競い合うなかで、互いに敬意を払うこと。さらには競技をさせてもらう自然環境にも敬意を払うこと。

友情とは、国内外の選手や運営スタッフを問わず、同じ競技を楽しむものとして仲間になること。趣味であるセーリング文化の絆を通して人間の幅を広げること。

セーリングを楽しむ仲間たちに、ぜひセーリングスポーツの素晴らしさを伝えるとともに、会員登録をお誘いいただけるようお願いいたします。例年と同様に3月から平成26年度に向けた会員登録が始まります。

■ジュニア・ユースにも届きます。

J-SAILING はジュニア・ユースメンバーが所属するおよそ200の団体にお届けしています。各団体のご担当者の方々には、ジュニア・ユースセーラーのためにJ-SAILING を活用されることをお勧めいたします。

■PDFでも読めます。

JSAF ホームページの<http://www.jsaf.or.jp/j-sailing/> にアクセスしてください。J-SAILING のpdfバージョンが掲載されています。過去の記事を再読したり、本誌が手元にない時にもPCがあれば読むことができます。ご利用ください。

■メールアドレスをお知らせください。

デジタル化が進み、電子メールを使った連絡方法が一般的になっています。JSAF もメンバー各位に様々な情報をお届けする際、メールを利用することが多くなっています。そこで、各団体の登録業務ご担当の方々にお願いします。メンバーの新規登録や更新登録の際には、必ずメールアドレスを併記していただけるようお願いいたします。

JSAFのメンバーになれば

- ◎メンバーズカードが発行され、公式競技参加の資格が与えられます。
- ◎会費の一部が傷害保険の保険料に充当され、セーリングの事故による死亡、後遺障害に適用されます。
- ◎JSAF の会報誌「J-SAILING」が送付されます。
- ◎各種講習会などに参加でき、資格を取得する際の条件に適用されます。
- ◎「J-SAILING」をはじめ、所属する加盟団体からもセーリングに関する各種行事やレース日程などの情報が提供されます。

加入、更新手続きの詳細は各加盟団体にお問い合わせください。

<http://www.jsaf.or.jp/dantai/>



いい風に恵まれた今年の開催地オーストラリア・ジーロング。日本のように「風が弱くてレースが消化できない!」と悩む必要は皆無だった

2014年メルジェス24クラス世界選手権

メルジェス24は今年でデビュー21年目を迎えました、国内ではおそらく15艇ほどしか存在せず、実際に乗艇された方は少ないでしょう。2隻の日本艇が参加した今年のワールドの様子とともに同クラスの現況をお伝えします。

レポート／日本メルジェス協会・石黒建太郎
写真 中嶋一成



総合10位となった日本艇（スリーボンド）

メルジェス24の今

メルジェス24は過去に7回の全日本選手権が行われ、2009年から「スリーボンド」がイタリアを主戦場として活動を開始し、11年世界選手権では「エスプリ」がコリンシアンディビジョン優勝、さらに12年世界選手権では「マンマユート」が総合7位となりました。

昨年9年ぶりに「Japan Melges Week」として全日本も復活しています。

昨今、キールボートの世界ではスピンネーカーではなくジェネカーを主流とするボートが増加していますが、メルジェス24は21年前からジェネカーを使う快足ボートとして注目を浴びていました。

メルジェスボートにはアウディ・メルジェス20、メルジェス24、メルジェス32の3クラスが存在し、ほぼ同じコンセプトで成り立っていますが、メル

ジェス24だけ唯一大きく違う点があり、それはプロセーラーの乗員制限を設けていないことです。

14年世界選手権にはメルジェスパフォーマンスセーラーボートCEOのハリー・メルジェス、シドニー五輪470級金メダリストのネイサン・ウィルモット、13年モス級ワールドチャンピオンのボラ・グラリ、そのほかクリス・ラッソン、チャリー・マツキーなど世界的に「超」がつくプロセーラーが多数参加しましたが、そのプロたちが自由にヘルムスマンとして参加でき、また全員プロでも構いません。

一方、誰でも参加できるオープンディビジョンの他にコリンシアンディビジョンが設けられ、チーム全員がISAFクラシフィケーションのグループ1（セーリングが職業ではない旨の証明書を持つ）であればこのクラスに登録し、純粋にアマチュアセーラーのみで競い合うことのできるシステムがあります。

ただしスタートは一緒です。プロ軍団にアマチュアだけでどこまで戦えるのかも楽しみのひとつです。

前哨戦のオーストラリア選手権

2014年の世界選手権（1月20日～2月2日・オーストラリア、ジーロング）に「スリーボンド」（松永鉄也ヘルム）とコリンシアンディビジョ

ンとして「エスプリ」（長橋誠ヘルム）の2チームが参戦しました。

初のアジア・オセアニア地域での世界選手権開催。前述のプロセーラー陣の他、イタリアの強豪チーム（ブルー・ムーン）、（アウディ）、（アルテア）、コリンシアンクラスで本場にいいのかと疑ってしまうエッチェル級ワールドチャンピオンのキャメロン・マイルズがヘルムの「ロジャー・ザット」など計27チームが参加しました。

前哨戦となるオーストラリア選手権では、「スリーボンド」がネイサン・ウィルモットを抑えて総合5位となりました。松永鉄也、吉田雄悟のオリピンコンビに笹木哲也、川西立人が脇を固め、イタリアから来たニコラス・ピアンキがタクティシャンでまとめるチームはさすがの一言です。

対照的だったのは「エスプリ」。初日は「スリーボンド」と共にいい位置につけたが徐々にほころびが出て、後半は他艇との接触によるリタイア、マークルールの争いによる審問ともなるも失格し、総合11位に甘んじました。（「エスプリ」は長橋誠、田淵靖浩、森田栄納介、石黒建太郎の元470セーラー、J24クラスの強豪「月光」の中山遼平が乗り込むチームです。

待ちに待った

世界選手権だった

世界選手権は毎日13時30分スタート予定と大変遅い時間に始まります。な

QUANTUM

www.quantum-jpn.com
info@quantum-jpn.com

JAPAN BOATSHOW 2014
INTERNATIONAL

ボートショー出展します。

3月6日(木)~10日(日)

パシフィコ横浜(第1会場)

www.wattsmarine.jp

(株)セイルス・パイ・ワッツ・ジャパン
本社ロフト

〒238-0233 神奈川県三浦市向ヶ崎町 8-40

電話:046-882-5451 fax:046-882-4319

関西営業所(新西宮 YH)

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-14-3

電話:0798-23-6410 fax:0798-23-6420



(エスプリ) は総合 15 位、コリンシアンディビジョン 4 位となった

ぜなら遅い方が決まってい風に恵まれるからです。

ここからボラ・グラリ率いる(ウエストマリン・リギン)、イタリアの(アルテア)が登場と大会のレベルがまた一段アップします。

(スリーボンド)、(エスプリ)はともに初日10位前後の順位となり苦戦します。2日目になり、(スリーボンド)は徐々に復調気配を見せますが、(エスプリ)はリコール解消、スタートでのケースによる720度回転でさらに調子を下げます。

3日目は(スリーボンド)がZ旗掲揚のスタートでリコールするなどどうしても上位に浮き上がれず、(エスプリ)は第1上マークをシンクルで回航するなどいいところを随所に見せますがフィニッシュまで維持できず。4日目も両チームともに初日から同じような状況が続き、ついに最終日の1レースを残すのみとなりました。

しかし、残り1レース、最後に一矢報いたいところでしたが風弱く、スタートリミットの15時を迎え今大会が終了。

栄えある優勝はイタリアの(ブルームーン)で01年に続き2回目の優勝で

す。あのスピードには誰も勝てないのではないかと。と思わせたいたハリー・メルジェス率いる(スター)を抑え切ったの素晴らしい優勝でした。

日本チームは(スリーボンド)が総合10位、(エスプリ)が総合15位及びコリンシアン4位となり、大苦戦で終わったと言えます。2チームそれぞれに事情が違い、一概にはなかなか言えませんが、ボートを素直に、そして気持ちよく走らせるためのヘルム・トリム・タクティクスが噛み合っていないかったのだらうと思います。

根本的なことですが、それぞれが高い技術を持ち合わせていたとしても、うまく融合しなければ生かすことができないと痛切に感じました。それがキールボートの難しさであり、またワシントンレーズの難しさではないでしょうか。

「Japan Melges Week」から世界へ

今大会の全体的な印象と言えば、まずスタートでした。

日本の2チームがリコールを経験しましたが、全レース、スタートラインが狭いためにゼネリコを繰り返し、毎

回リコールありのスタートでした。次に13時30分第1レーススタートでも毎日3レースをこなせるコンディションの良さ、さらにテンポよく進行する実に効率的な運営が印象的です。個人的にはあまりにいいテンポで少々疲れましたが。

大会イベントではありませんがメルジェス24デイレターであるメルジェスアジアパシフィック主催のBIBのパーティが開かれ、ハリー・メルジェス、ネイサン・ウィルモットやボラ・グラリたちと肉を食しながらクリケットなどのゲームに興じる、など海でも陸でも皆で楽しむメルジェス24のイベントは最高の一言です。

日本メルジェス協会はまだ生まれただばかりの組織ですが、このような「素晴らしいロケーションで素晴らしいレースをし、仲間たちと夜まで楽しむ」を目指し、より多くの人たちがつながっていきたくと考えます。

11月には返子マリナで「Japan Melges Week」を開催予定であり、ここから世界チャンピオンへの道が開けていくことを切に願うばかりです。皆様からのご参加の一報をお待ちしております。

2014年度 JSAF ナショナルチーム選手一覧

2016年リオデジャネイロ五輪に向けてのナショナルチームが決定した。
8クラス28人の選手がオリンピック代表の座を目指してトレーニングに励む。

* 2014年2月1日現在のデータ * データは選手名、所属、出身校の順



470級男子

松永 鉄也 マツナガ テツヤ
株式会社スリーポンド
同志社大学



吉田 雄悟 ヨシダ ユウゴ
株式会社スリーポンド
法政大学



470級男子

土居 一斗 ドイ カズト
チームアビーム
日本経済大学 福岡第一高等学校



今村 公彦 イマムラ キミヒコ
チームアビーム
九州旅客鉄道株式会社 日本経済大学



470級男子

飯束 潮吹 イイツカ シブキ
株式会社エス・ビー・ネットワーク
日本経済大学



八山 慎司 ハチヤマ シンジ
株式会社エス・ビー・ネットワーク
福岡大学

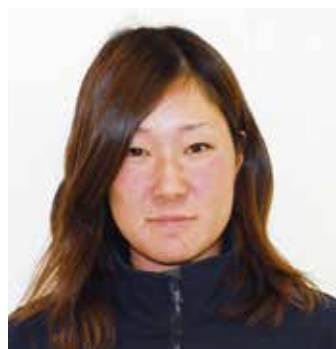


470級男子

市野 直毅 イチノ ナオキ
和歌山セーリングクラブ
関西学院大学



外園 潤平 ホカゾノ ジュンペイ
九州旅客鉄道株式会社
日本経済大学



470級女子

松下 結 マツシタ ユイ
株式会社ベネッセホールディングス
関西学院大学



鈴木 梨奈 スズキ リナ
東北学院大学
塩釜高校



470級女子

吉田 愛 ヨシダ アイ
株式会社ベネッセホールディングス
日本大学



吉岡 美帆 ヨシオカ ミホ
株式会社ベネッセホールディングス
立命館大学 兵庫県立芦屋高等学校



49erFX 級

波多江 慶 ハタエ チカ
株式会社豊田自動織機
日本経済大学

大熊 典子 オオクマ ノリコ
株式会社豊田自動織機
長崎大学

49er 級

牧野 幸雄 マキノ ユキオ
トヨタ自動車東日本株式会社
立命館大学

高橋 賢次 タカハシ ケンジ
トヨタ自動車東日本株式会社
関東学院大学



レーザーラジアル級

田畑 和歌子 タバタ ワカコ
チームアビーム アビームコンサルティング株式会社
日本経済大学

レーザーラジアル級

土居 愛実 ドイ マナミ
慶應義塾大学
山手学院高校

レーザー級

南里 研二 ナンリ ケンジ
佐賀県ヨット連盟
佐賀県立唐津西高等学校

レーザー級

安田 真之助 ヤスダ シンノスケ
京都府教育委員会
国立大学法人鹿屋体育大学



RS:X 級男子

板底 雄馬 イタバシ ユウマ
立命館大学
滋賀県立栗東高等学校

RS:X 級男子

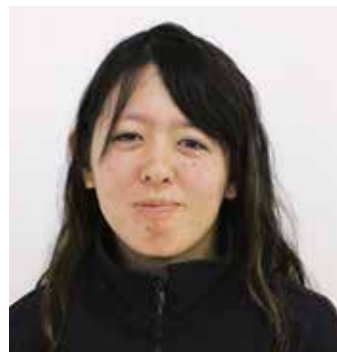
富澤 慎 トミザワ マコト
トヨタ自動車東日本株式会社
関東学院大学

レーザーラジアル級

富部 柚三子 トンベ ユミコ
一日本女子大学

レーザーラジアル級

蛭田 香名子 ヒルタ カナコ
株式会社豊田自動織機
琉球大学



RS:X 級女子

伊勢田 愛 イセダ メグミ
ビワコマリンスポーツクラブ有限会社
同志社大学

RS:X 級女子

小嶺 恵美 コミネ メグミ
ジェイ・ウィル・パートナーズ
関東学院大学

RS:X 級女子

大西富士子 オオニシ フジコ
TEARS
桜美林大学

RS:X 級女子

須長 由季 スナガ ユキ
株式会社ミキハウス
明治大学



会議は各委員会の事業報告から始まりました。レース委員会外洋小委員会の三浦信郎次期委員長はレース公示のひな型を作ろうとしていること、またRSS 55の扱いなど最新の話題に触れて報告を進めました



これだけのメンバーが集まると進行も大変。2日目に行われた加盟団体、特別加盟団体の報告では持ち時間5分を使い、各団体の報告が次々と行われました

外洋合同委員会会議

オフショア情報共有の場として 密度ある2日間

2月1日、2日、外洋合同委員会会議が
函館市で行われました。
本会議は、JSAF外洋関係の
各団体の情報交換の場として
年に1度開催されており、
今年は28団体62人が参加しました。

委員会ごとの会議を開催してはいましたが、全ての委員会に出席するため何度でも出張せねばならず、大変に不効率で、そのため各委員会の出席率

開催の経緯
本会議の開催の経緯を「開催案内」からご紹介します。
『日本外洋帆走協会（NORC）時代は各地の支部はあくまでも支部で、全国組織はひとつの団体でした。よって全国統一の規則や規定の運用は容易でした。しかしJSAFへの統合後各地の支部はそれぞれ加盟団体という独立した団体となりました。JSAFの加盟団体という共通点はありませんが、個々の加盟団体は組織の上では無関係の団体となりました。従って、全国の外洋系加盟団体が集う公式な会議はJSAFには存在せず、外洋系加盟団体を横に貫くような会議はJSAFの各委員会にしか存在しないのが現実です。

委員会ごとの会議を開催してはいましたが、全ての委員会に出席するため何度でも出張せねばならず、大変に不効率で、そのため各委員会の出席率

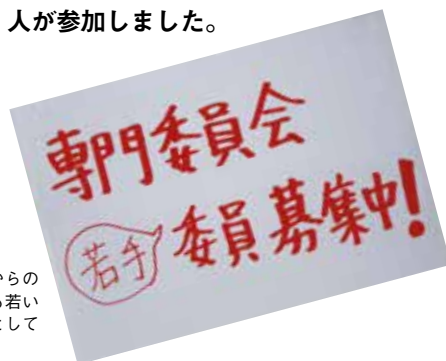
今回の会議の会場は、南北海道外洋帆走協会の尽力でセッティングされました。そして来年の開催地は長崎市に決まり、会場の設営は長崎県セーリング連盟外洋部会にお願いすることになりました。

◎
今回の会議の会場は、南北海道外洋帆走協会の尽力でセッティングされました。そして来年の開催地は長崎市に決まり、会場の設営は長崎県セーリング連盟外洋部会にお願いすることになりました。



会議参加者とゲストが入りまじってのパーティは情報交換と親睦が大いに盛り上がりしました

会場に貼られたベテランからのメッセージ。どの委員会も若いパワーと女性の力を必要としているのです



密度の高い2日間

右記のような経過で始まった本会議ですが、その目的は「公平感のある円滑なレース運営」を目指すことにあり、そのための「各種規則や規定の解釈、統一された見解等についての説明」と「加盟団体・特別加盟団体の役割の説明」が会議の中心となりました。

機会が多い東京で開催するのではなく、様々な水域を訪ね各地の状況をナマで見るとも有意義です。今回、本会議の後に南北海道のメンバーを対象に大坪外洋安全委員長による安全講習会も開催されました。このように場所と時と人を得れば、この会議の有効活用はもっと広がるはず。植松眞JSAF副会長は、「2日間に集中して、一カ所で様々な情報が交換できるこの会議は非常に有意義で、効率的でした。主要な関係者が集まるので空き時間に様々な打ち合わせができるし、新たな人脈も築け、旧交もあたためられる。来年は長崎開催とのことですから楽しみです」と初参加の感想を語りましたが、将来的にはこの会議、同時にいくつかの会議が進行し、様々な事柄が並行して議論される、日本版JSAF年次総会の様相を呈することになるのかもしれない。

全てのセーラーへ 安全にセーリングを楽しむために

自然に對峙し、自らに向き合う

すでにご存知の方も多いかと思いますが、2013年11月中旬にクルージング中の艇から落水者が発生し、未だ行方不明となっています。昨年5月から一年半の間に、落水事故から死亡または行方不明に至る重大事故が4件（JSAF登録艇・クルーザーのみ）に上ります。

悲しいニュースに接し、全てのセーラーが各々のセーリングに対しての取り組みを改めて見つめ直していただきたいと思います。

4 件の事故の概要

① 通常航行中（沖縄—東海レースリタイヤ後）に乗員が落水、死亡。（2012年5月）

② 通常航行中（アランレース参加のため回航中に乗員が落水、死亡）。（2013年5月）

③ レース中（インシヨア・東京湾）に他艇との衝突が原因で乗員が落水、死亡。（2013年10月）

④ 通常航行中（クルージング中）に乗員が落水、行方不明。（2013年11月）

重大事故防止＝落水しないこと

ヨットでの死亡事故は、落水からしか起きえないと言いつてもよいでしょう。

昨年来の落水事故の度に、ライフジャケットや落水救助方法などが話題の中心になりがちですが、これは落水後の最後

の手段であり「落水しないこと」が死亡事故の最重要防止策です。

落水しないための取り組み

落水防止のための艇上でのセオリーやテクニク（例えば風上舷を通るとか、まめにクリッピングする）は様々ありますが、これさえ行えば大丈夫といった魔法の方法論はなく、基本的に忠実であることにつきます。

また、艇上での行為の優先順位は状況によって細かく異なることもあり、今回はセオリーやテクニクの話ではなく、セーリングに対する姿勢において改めて考えてほしい2点を記述します。

その1 スキルアップ

セーリングの装備や備品は、近年その素材も機能も著しく進化しています。道具は進化して便利になりましたが、自身のセーリングスキルを恒常的に進化させようとしていますか？

落水事故を含め様々な海難事故に対する防止の最初の一步は、セーリングスキルの向上であるといえます。速く帆走する、どんな天候でも帆走できるといった帆走技術。天候を読み取り天候を予測する技術。艇の装備や備品を使いこなす技術など、セーリングスキルの向上を常に図っているでしょうか？

万が一のための落水救助訓練も重要ですが、万が一を起こさないための「セーリングスキルの向上」ヨットがうまくな

る」ことこそ、事故防止の最初の一步であり、かつ最大の要素であるといえます。

その2 自らに向き合う

セーリングの根本は（クルージングであれレースであれ、他艇や他人との競争ではなく、自然と対峙することです。

自然との対峙、それは自ずと自分自身との戦いでもあります。自身あるいは自艇（チーム）のスキルと航行プランを冷静に推し量ることが必要です。出航にあたり、人数が少ない、あるいはせつかくハーバーに來たのだからと無理に乗艇していませんか？

悪天候だけど、他艇が参加しているから自艇も平気だという判断をしていますか？ 時には、出航の取り止めや航行プランの変更などの勇気ある判断が必要です。

また、長年ヨットやっている経験者は知識と体力のバランスを推し量れているでしょうか？ 若い頃にはできたことも、加齢に伴う体力低下により思うように体が動かない場合があります。そして、悪天候などによる体力低下は、冷静な判断を妨げることにもなります。

セーリングは、「自分に真摯に向き合う」必要があることを忘れないでください。

自分を守るのは自分でしかない

4 件の落水事故において共通している点は、落水者も同乗者もベテランセーラーであることです。自然は初心者にもベテ

ランにも、誰に対しても平等です。

セーリングスキルの向上は尽きることなく、初心者だけのものではありません。長年の経験者であっても絶えず情報収集し、訓練し、スキルの向上を図ることが必要です。そして、慣れからくる油断に気をつけなければなりません。

海原では、法律もルールも乗員や艇を守ってくれません。乗員や艇を守ってくれるのは、自分自身と同乗の乗員でしかありません。安全な航行には、事前の充分な準備（ハードとソフトの両面）と無理のない航行プランの策定が重要なことは言うまでもありません。

セーリングを楽しむために

どんなセーリングにも困難や危険が伴います。困難や危険があるからこそ、冒険心がくすぐられ、それを乗り越えてい



「ヒヤリ、ハッと！ 体験募集」

JSAF 外洋安全委員会は、安全航行の参考書とすべく、セーラーの体験を取りまとめた「安全航行アーカイブ（書庫）」を作成・公開することとしました。

過去に経験した事故あるいは事故寸前になったことなどの「ヒヤリ、ハッと！ 体験」、また、私はレース前やクルージング前にはいつもこういう準備をしているなどの「安全対策談」など、皆さんの経験をひとまとめにして公開することで、「安全航行の参考書」としたいと考えています。

この「安全航行アーカイブ（書庫）」を意味あるものにするためには、多くの体験談が必要となります。

皆さんの体験談を外洋安全委員会にお寄せいただくよう、ご協力をお願いいたします。

なお、この募集は通年で継続的に行っていきます。体験談が寄せられ次第、アップデートしていく予定です。

詳しくは <http://www.jsaf-anzen.jp/> をご覧ください。

最後に

本稿は通達や指導といったものではありません。また、ここに書いてあることは特に目新しいことではありません。すべてのセーラーが、自身のセーリングに対する姿勢を今一度真摯に考えていただき、再び悲しい事故が発生しないため、そして私自身への戒めのために筆をとった次第です。（大坪明／JSAF 外洋安全委員会委員長）

蒲郡市長

稲葉正吉さん

稲葉正吉蒲郡市長は、JSAFの新年会において
2020 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、
「蒲郡市はセーリング競技の強化合宿地として選手団の誘致をします」
と発表した。その詳細を伺った。



蒲郡市のバリアフリーゾーン「まんぼう」



中部水域のディンギーのメッカ 海陽ヨットハーバー

選手団の誘致は 子どもたちに対する 重要なミッションです。

——「選手団誘致」は地元紙の記事にもなっていますね。このアイデアのきっかけは？

●稲葉市長（以下市長）——2020年に向けて日本の人々の目は東京へ向いています。しかし、東京だけではなくて、日本全体としてこのムーブメントを盛り上げようという気持ちを全国のの人たちは持っているはず。ところが、地方としてどのように関われるか、そのきっかけを見出しにくい。これは全国のどの都市の首長さんも感じていることだと思っています。蒲郡市も、2020年に日本へやってくる人たちにどうすればここへ足を伸ばしてもらえらるだろうか、あと6年しかない中で何ができるかを考えたのです。

一方、当市は「海のまち蒲郡」がキャッチフレーズ。海という素晴らしい資産があるわけで、これを利用しない手はない。市内には海陽ヨットハーバー、ラグーナ蒲郡があるし、お隣には日産マリナーナ東海、出光マリナーナなど三河湾には素晴らしいマリナーナやハーバーがいくつもあるんですから。

——セーラーである市長ならではの発想ですね。「セーリング競技の強化合宿

地」として手を挙げられたのもユニークです。JSAFを通して宣言されたことも共感を呼びました。

●市長——私はJSAFのメンバーですから、これが一番の近道だったんです。オリンピック・パラリンピックに海を通して関わりたいと考えたとき、市のスタッフや周囲は愛知県に何かを頼めなにかという発想になった。しかし、オリンピック・パラリンピックは競技団体が運営する要素が高い。行政を通して何かを働きかけるのではなく、現場に直結するJSAFを通じてアピールする方が声が届きやすいと考えたんです。おかげさまで今回の宣言以来、地元のセーラーたちからも応援すると言われますし、皆さん乗り気になっておられます。

——「強化合宿地として選手団の誘致」というのは、サッカーのワールドカップの事前合宿地のイメージなのではないですか？

●市長——その通りです。JSAFの方々が海外遠征をされるとき、監督やコーチ、あるいは選手が地元セーラーと話して「ガマゴオリ」をアピールしていただきたいです。「東京の準備状

況はどうなんだい」といった話が出たとき、「東京の新しいマリナーナはまだできていないが、心配するな、日本にはガマゴオリがある」と言っているんです。

新幹線のひかりで東京からおおよそ1時間半、東京から来ると新横浜の次の駅が豊橋です。中部国際空港にも近く、日本列島の真ん中に位置し、内海なので東京湾と海況が似ている。そして何よりも観光地だから宿泊施設は豊富。また、蒲郡市にはバリアフリーのボンズン「まんぼう」があり、身障者の方々のセーリングにもお役に立てます。全国で唯一の施設で、ベキン、ロンドンパラリンピックの事前強化合宿にも使っていたいただいています。一般のマリナー施設も充実しているし、セーリングに精通した優秀なレース運営スタッフもこの地域には豊富。こんなに売り込みやすい都市はありません（笑）。

——海外からやってくるセーラーに対し、行政として具体的な支援策はあるのでしょうか。

●市長——蒲郡市観光協会にMICE助成宿泊制度という制度があります。これは、30人以上の団体客に対して、

参考：MICEは会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体・学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。



中部地区最大級規模のラグナマリーナ

参加者1人につき規定額を助成するというものです。上限額が決まっており、市の観光協会に加盟する宿泊施設に宿泊することなどいくつかの条件がありますが、スポーツ大会の開催、愛知県内での会議やイベント、社内会議が対象で、これを海外からの遠征チームに適用できるように、制度を整えようとしています。もちろん国内の方々のために整備した施策なので、今回の話からは外れますが、日本のセーラーの方々もご利用いただければと思います。

——さて、愛知大学ヨット部のご出身ですが、今でもセーリングは続けておられますか？

●市長——ラグナマリーナに31艇艇を置いていますが、年に3、4日しか乗艇できません。ヨットを始めたのは大学からです。自宅が三河三谷にあり、海が近かったこと、大学から始めても正選手になれる競技ということでヨットを選びました。

たまたま全日本インカレにも参加でき、その後に市役所へ入ってからは団塊の世代の諸先輩セーラーたちと、他の自治体のセーラーたちで自治体ヨット部を作ろうと奔走し、盛り上がりま

した。愛知国体開催の準備が始まるころに県連のメンバーとしてお手伝いするようにになり、A級ジャッジをとったころ蒲郡にニッポンチャレンジのベースキャンプがオープンしたんです。こちらの方も手伝うようになってセーリング関係のつながりがグッと増え、国体が具体的になるころには準備委員会の主査として動きました。必死で働きましたね。日本には多くの首長さんがいらっしゃいますが、多分、もっともセーリング界をお手伝いした首長の1人かもしれません(笑)。

——地元紙に執筆された連載コラムで、ヨットや海という言葉が出てこないのは1回だけという徹底ぶりでした。そのコラムに「こんなものかなというヨットのいい加減さがたまらなく好き」と書いています。

●市長——人生もそうなんだと思いますが、こんなもんだなという加減が大切だと思います。その感覚的なところが好きなんです。数字で表わせない部分、センスなり勘が大切になるところ。だって風には色がついていませんから、それを捉えられる感覚が求められるスポーツがセーリングなんだと思います。

——2020年のその先には何が見えますか？

●市長——ここまで、セーリング界にお世話になってきて、実現できなかったことにジュニアセーラーの養成のお手伝いがあります。

ニッポンチャレンジのベースキャンプで子どもたちに声をかけてOPのイベントなどはやったことがあるのですが今一つ人気がなかった。

なぜかなと考えたとき、蒲郡は海が身近すぎて、セーリングに気持ちが集まらないのではないかと思った。魚が釣れて、海で遊べて、何でヨットなのという雰囲気があるのかもしれない。

だからこそ、ジュニアたちがオリビック・パラリンピックのセーリング競技を通じてもっと海を好きになってもらえたらと思います。そのためには、2020年のオリンピック・パラリンピックはフィニッシュではなく、未来のための回航マークとしたいのです。

ジュニアセーラーにはその先の未来が待っているのですから、それを豊かなものにするためにも、今回の「強化合宿地として選手団誘致」は子どもたちに対する重要なミッションなのです。ぜひとも実現させたいですね。

RESPECT THE ELEMENTS™

www.gill.jp

Fortune Corporation

info@gill.jp



ASTRON
GPS
SOLAR

SEIKO

お問い合わせ先: セイコーウォッチ お客様相談室 0120-061-012 (9:30~17:30 土・日・祝日除く)



NF Friends の皆さん

採択案 第2弾発表

JSAF環境コンテスト 2013

JSAF 環境委員会は「残したいのはきれいな海」をスローガンに「環境コンテスト」を実施しました。

その結果、2つのアイデアが採択されました。前号に続き2つめの採択案をご紹介します。

コンテストの趣旨

2013年は4年に一度のセーリング競技規定改定の年でした。その改定では基本原則の中に「環境責任」が新設され、環境への意識の向上が求められています。

そこで応募者自らに環境保全、啓蒙のために何をしたらいいかを考えていただき、優秀な案に対して10万円を提供し、その実現を後押ししようという試みが「環境コンテスト」なのです。

10万円という予算でできることは限られています。しかし、まずは自分たちの身の回りであることから意識を変えることで、改善できることもあると思います。

このコンテストを機会に環境に対し考えを深め、自分たちは今何をすべきかを考えることが開催の目的の1つでもあります。6年後には東京にオリンピックがやってきます。少しでもきれいな海で海



スピンを活用したバッグ類



ダクロンセールを活用した帽子



昨年の国体 JSAF ブースで販売した風呂敷

■環境委員会から

環境委員会では今年も「残したいのはきれいな海」をスローガンに「環境コンテスト2014」を実施します。夏のイベントシーズンに間に合うよう今年も前回より開催を早め、4月から募集を開始する予定です。環境啓蒙のイベント、アイデアなど、みなさまのご応募をお待ちしています。

なお、今回の環境コンテストに関しては、環境委員会のスポンサーであるヤンマー株式会社、JFEホールディングス株式会社の多大なご支援をいただきました。また、応募、ご協力いただいた皆様にご場をお借りして深く御礼申し上げます。

外からのセーラーを迎えたいものです。

なお、今回の応募数は21件でした。その中から前号で紹介した「ストップ！アイドリング 残したいのはきれいな海」（江の島ヨットクラブジュニア部会 JSAF 環境コンテスト2013 チャレンジプロジェクト）と左記の2つ目の案を JSAF 理事の代表、および環境委員会の審査で採択しました。

リサイクルセールを活用したリユース（応募団体：NF Friends）

NF Friends はセーリングのみならず、スポーツと芸術を愛するグループです。

ヨットのセールを廃棄するには費用がかかり、ゴミが増えると二酸化炭素の排出の増加につながり、当然ながら環境に悪影響を及ぼします。地道な活動ではありますが、少しでも自分たちができることで環境保全に役立つことはないか考えた結果、「リサイクルセールを活用した

リユース」活動を行いました。

- ① まず、セールの状態が比較的良好の場合、本来の目的であるセールとしてとじて再び使うことができないかを検討。様々なネットワークを通じ、他に使える艇はないか、セールの橋渡しを試みます。
- ② どうしても廃棄せざるを得ない場合、その大きさ、素材、形状により再利用の方法が変わってきます。セールの素材は硬いため、再加工しようとしても家庭用のミシンで縫うには限界があります。そこで、様々なミシンを比較し、検討した結果、新品ではなく中古の縫物の職業用ミシンを購入、それを修理して再利用することにしました。
- ③ 古いセールを活用したバッグを作っている方々が増えてきたようです。そこで、バッグのみならず、帽子、風呂敷など様々なモノを作ってみました。セールの中のパテンも活用しました。
- ④ エアコンの設定温度を2℃変えること

二酸化炭素発生量が1日で約90g変わります。エアコンを使用する時間が1時間短くなると、1日で約30gの二酸化炭素の発生量を減少させることができます。そこで、使い古したセールで日除けを作りしました。一方、買い物の際にレジ袋をもらわないと2袋で約40gの二酸化炭素の発生量を減少できます。そこで、同様に古いセールでマイバッグを制作しました。

*

バッグ、風呂敷、巾着などの小物については JSAF 環境委員会と協力をして、昨年の東京国体の JSAF ブースで試験的に販売させていただく機会を得ました。利益は環境事業へ寄付など、今後継続可能な仕組みを考えていきたいと思っています。地道な努力ですが、自分たちで無理なくできることから始めることにより、徐々に大きな力となっていくと信じています。（NF Friends）



Fn = 0.5 (6.4 ノット)



Fn = 0.6 (7.7 ノット)



Fn = 0.8 (10.2 ノット)

図 3-4
470 級実艇の曳航試験時の船体姿勢

3-3 レーザー級の性能との比較

470 級の実艇の曳航試験は海上で行ったため、残念ながらピッチ角や艇体浮上量を測定することはできなかった。しかしながら、最近一人乗りのディンギで、よりフラットな船型を持つレーザー級について詳細な実験を行った結果 [2] が報告されているので、これと比較しながら検討してみよう。

レーザー級の水線長は 3.8m、艇体重量は 80kg であり、図 3-5 に船体形状と、乗員重量ならびに乗艇位置による喫水の違いを示す。この報告では実艇の約半分の大きさ (1/2.08) の模型を製作し、 $Fn = 0.8$ まで曳航水槽試験を行い、重量による違いやトリムによる違いなど詳細な計測を行っている。なお、ヒールによる違いは含まれていない。

図 3-2 の図中に示す実線が、レーザー級の抵抗係数の変化を表す曲線であり、破線で示すインターナショナル・セーリングカヌー級と、470 級の実測値とはほぼ同様の結果となっている。



Figure 2 Laser Body Plan 80 kg nominal crew

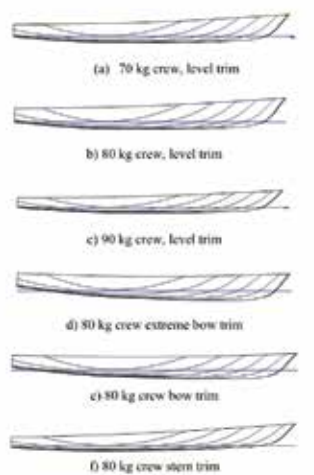


図 3-5 レーザー級の船体形状と乗員重量ならびに乗艇位置による喫水の違い

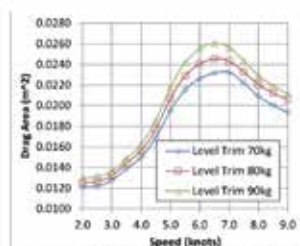


Figure 4 Drag Area for differing displacements in level trim

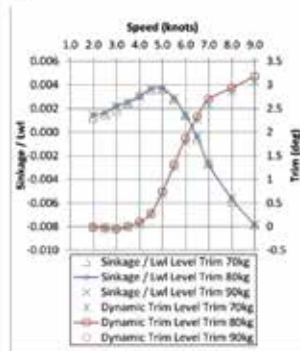


Figure 5 Sinkage and trim for different crew weights

図 3-6 レーザー級の抵抗曲線とプレーニング時の沈下量と動的なピッチ角

図 3-6 の上図に速度と抵抗の関係、下図に速度に対する船体重心の沈下量と動的なピッチ角の変化を示している。図 3-6 上図の抵抗値は (1) 式に示した抵抗係数 C_T に濡れ面積 $S (=2.96\text{m}^2)$ を 0 乗じた形で示している。このようにすると濡れ面積の変化を含めた比較ができるので、直接優劣の判断ができる。図中では乗員の標準体重 80kg と $\pm 10\text{kg}$ の違いによる抵抗値の違いを示している。(なお、この内の標準体重 80kg のデータを濡れ面積 S で除したものが図 3-2 内に示した実線である。) 当然軽い方が抵抗が小さくなっているが、いずれの場合も速度 6.5 ノット (約 3.3m/s、 $Fn=0.55$) でピークを迎え、プレーニングに入っていることがわかる。また、標準体重から $\pm 10\text{kg}$ の違いによって生ずる濡れ面積の違いは約 $\pm 1.9\%$ であるが、測定された全抵抗の違いは、低速域では $\pm 2.7\%$ 、高速域で $\pm 6.2\%$ となっている。これは乗員重量の違いが、摩擦抵抗だけではなく造波抵抗にも影響することを意味している。

ところでこの結果を鵜呑みにすると、乗員重量を軽くすることによって、特に高速域で抵抗が小さくなり有利になると考えられるが、本当にそうだろうか？ ここでは、乗員が船のヒールをハイクアウトによって起こす効果をまったく考慮していない。重い乗員は強風時にもヒールを起こすことができるので、セールを有効に使うことができる。したがって、体重が重いことによる抵抗増加のデメリットと、ヒールを起こしてセールを有効に使えるメリットなどを比較しなければ優劣をつけることはできない。このような比較をするには、後述する速度予測プログラム (VPP) を用いなければならない。

一方、図 3-6 下図では右下がりの曲線が船体重心の沈下量を表しており、左側に水線長に対する割合のスケールが示されている。

これによれば、速度 5 ノットで一旦 0.004 (15mm) まで沈み込んだ後、9 ノットで -0.008 (-30mm) まで浮上することがわかる。また、右上がりの曲線は船体の動的なトリム角の変化を表しており、右側に角度のスケールが示されている。4 ノット程度まではトリム角は 0° であるが、ここからバウが上がりはじめ、9 ノットでは 3° 以上の傾きとなることわかる。プレーニングに入る目安となる 6.5 ノットでは、沈下量はほぼ 0 にもどるとともに、トリム角は 2.3° となっている。

図 3-5 の下 3 つの図は、標準体重 (80kg) で乗艇位置を変えることによる (静的な) トリムの変化を示している。この報告では、このようなトリム変化の影響も明らかにしている。前節で述べた低速域でのバウトリム (バウ下げ) の (濡れ面積を減らすことによる) 効果は、この艇の場合では 1.3m/s (約 2.5 ノット) 以下の速度でないとは有利にならないことが示されている。これ以上の速度から、3.7m/s (約 7.2 ノット、 $Fn=0.6$) までの中速域では水平トリムの状態が有利であり、これ以上のプレーニング状態になってようやくスタントリム (バウ上げ) が若干有利という結果となっている。スタントリムはほとんどの速度領域で最も悪く、特にプレーニングに入る目安となる 6.5 ノットでも、水平トリムより抵抗が大きい。

したがって、急いでプレーニングに入ろうと後へ移動してスタントリムにすることは、かえって逆効果になる可能性がある。後へ移動するとはすれば、十分プレーニングに入ったことを確認してからの方がいいであろう。(なお、ここでのトリム変化は、乗員の前後移動によって図 3-5 の下 3 つの図のように意図的に変えて、そのまま乗り続けることを意味している。)

(以下、次号)

参考文献

- [1] C. A. Marchaj: "Sailing Theory and Practice", Dodd, Mead & Co. New York, 1964.
- [2] A.H. Day and E. Nixon: "Measurement And Prediction of The Resistance of A Laser Sailing Dinghy", Trans RINA, Vol. 154, Part B1, International Journal of Small Craft Technology, Jan-Jun, 2012.

こうすれば速くなる(かも)！ 470級の帆走性能を科学する②

「どうすれば速く走れるか」はセーラーの永遠のテーマである。学術的な側面からそのテーマを探求したレポートを掲載する。頭をクリアにして、お読みいただきたい。(編集部)

レポート／金沢工業大学 増山 豊

3 直進抵抗 (つづき)

3-2 高速時の性能

前号の図3において、実艇で3～4m/s (5.8～7.8ノット)の範囲で抵抗値が急激に大きくなっているが、それ以上の高速域では増加の割合が鈍っているように見える。これをもっと明確にするために、抵抗係数とフルード数の形で表したものを図3-2の●点と○点で示す。なお図中の実線と破線は、各々後述のレーザー級とインターナショナル・セーリングカヌー級のものである。

抵抗係数 C_T とフルード数 F_n は次のように定義される。

$$C_T = \frac{T}{\frac{1}{2} \rho V^2 S} \quad (1) \quad F_n = \frac{V}{\sqrt{gL}} \quad (2)$$

ここで、 T は抵抗値 [N]、 ρ は水の密度 ($=1000\text{kg/m}^3$)、 V は速度 [m/s]、 S は濡れ面積 ($=4.52\text{m}^2$)、 g は重力加速度 ($=9.81\text{m/s}^2$)、 L は水線長 ($=4.4\text{m}$) である。(SとLの数値は470級の値)

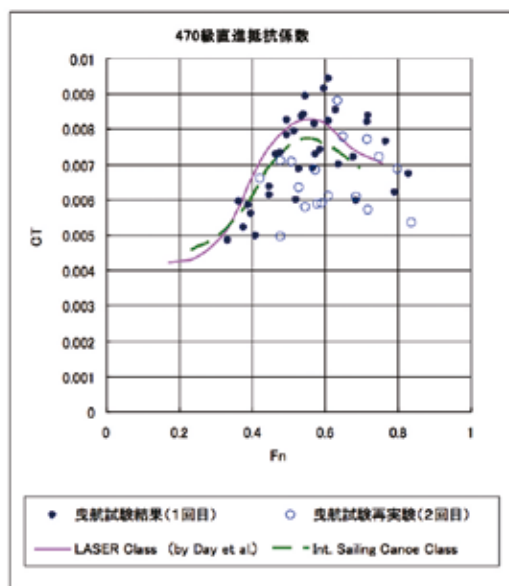


図3-2 抵抗係数とフルード数で表した抵抗変化の様子

このような形で表すことを無次元化と呼んでおり、特にフルード数は、船の大きさにかかわらず速度に対する抵抗変化の特徴を表す上で重要な無次元数である。図3-2からわかるように、3種類の艇ともに、 $F_n = 0.5 \sim 0.6$ の範囲をピークに抵抗係数が減少していることがわかる。これ以上の高速域は半滑走領域と呼ばれ、艇体全体が動的な揚力で浮上する、いわゆるプレーニング状態となる。(なお、抵抗係数が減少しても、抵抗そのものは速度とともに増えていくことに注意)

Marchajは、有名な“Sailing Theory and Practice” [1]において、インターナショナル・セーリングカヌー級の実船試験データから図3-3のような結果を示している。同艇は470級に比べると、全長は約5mと少し長いのに対し幅は1mと狭いが、ボトムはフラットである。図の

横軸は、英米の単位系であるフィートとノットで表した速長比 (v/\sqrt{L}) で表されている。これをフルード数 F_n に換算するには3.36で割ればよく、図中にいくつか F_n の値を示した。Marchajの定義によれば、図中の①を $F_n \approx 0.5$ までのプレーニング前の領域 (排水量型走行と呼ばれる)、②を $F_n \approx 0.5 \sim 0.95$ のセミ・プレーニング領域、③を $F_n \approx 0.95$ 以上のプレーニング領域としている。破線、実線、一点鎖線はそれぞれ、バウ、ミジップ、スターンの浮上高さを表している。②の $F_n \approx 0.5 \sim 0.6$ において、バウが浮上する一方、スターンが大きく沈み込んでいることが分かる。この時が図3-2にも示す、抵抗係数が最大となる点である。これ以上の高速になるとスターンも浮上して艇全体が浮上し、抵抗係数も減少してくる。

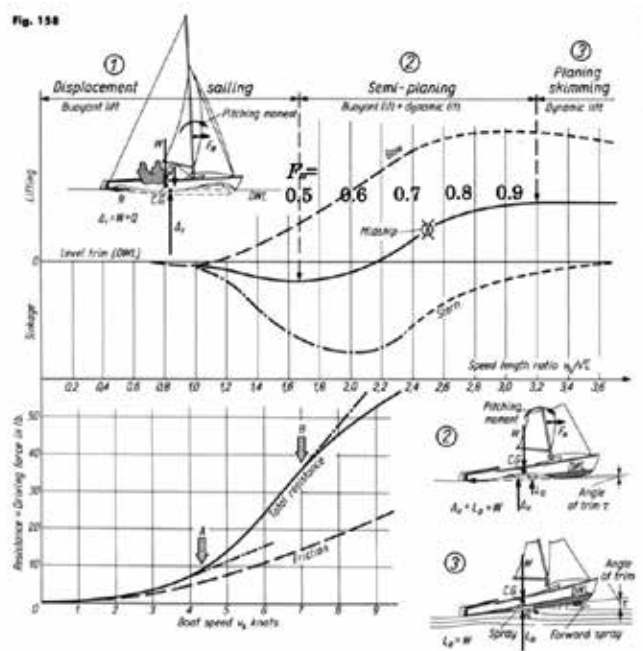


図3-3 インターナショナル・セーリングカヌー級の実船試験データ [1]

これと比較するために、470級の曳航試験時の様子を図3-4に示す。この場合も、 $F_n=0.5$ から0.6にかけてかなりスターンが沈み込むとともにバウが持ち上がっていることがわかる。さらに $F_n=0.8$ になると、スターンが持ち上がってきてフラットな状態となり、艇は水面上を滑走するようになる。船首部分は水面上に出て、スプレーはかなり後から出ていることがわかる。繰り返すが、図3-2にも示すように $F_n=0.6$ 近くのバウが持ち上がっている状態が、最も抵抗係数が高い。より高速で帆走するためには、この状態を早く抜け出さなければならない。ただ、このために乗員が前へ移動して無理やりバウを下げようとするのは、次節で述べるように逆効果のようである。それよりも、何らかの方法でもう少しセールをパワーアップするテクニックを身に付けるべきであろう。この抵抗係数のピークを乗り越えることができれば船は加速し、これによって相対風速がより大きくなってさらなる加速が可能になり、完全なプレーニング状態へと向かうことができる。

BOARD

ノティスボード

ボートショー開催！JSAFも出展します

2014年3月6日～9日にかけて、「ジャパンインターナショナルボートショー2014」が開催されます。

会場はパシフィコ横浜（第1会場）と横浜ベイサイドマリーナ（第2会場）に分かれており、第1会場は屋内展示、第2会場は海上展示となっています。

JSAFはこのボートショー第1会場に2カ所に分かれて出展します。

1つはヨットコーナー内ブース。JSAFへの問い合わせに応じ、新たなメンバー獲得のためにJSAFの活動を紹介し、JSAFオリジナルグッズを販売するブースです。

もう1つは、JOCの協力を得て「オリンピックセーリング競技応援プロジェクト」と銘打ち、五輪ムーブメントに追い風を送ろうというブースです。

そこでは、49er艇やジュニアセーラー向けの艇を展示し、来場者にディンギーを身近に感じてもらう。さらには、メダリストの協力を得て、銀メダルと銅

メダルを展示。また、1964年東京五輪の写真を表示し、加えて最近の五輪艇種の競技の様子を映像で流します。ステージではジュニアセーラーが参加する五輪ヨット競技を題材にしたクイズも実施する予定です。

これらの企画はボートショーの主催者、日本マリンスport協会との共同企画で行います。また、五輪を目指すJSAFナショナルチームへの資金カンパも会場で募ります。是非ともボートショーに足を運び、ご協力をお願いいたします。

■ ジャパンインターナショナルボートショー2014 開催概要

名 称：ジャパンインターナショナルボートショー2014
主 催：一般社団法人 日本マリンスport協会

会 期：2014年3月6日(木)～9日(日)
4日間

時 間：10:00～17:00（※3月6日は11:30に一般開場）

会 場：パシフィコ横浜（屋内展示）
横浜ベイサイドマリーナ（フローティング展示と陸上テント）

入 場 料：一般 1,200円／高校生以上（中学生以下無料、2会場共通）

併催イベント：横浜中古艇フェア（パシフィコ横浜屋内）、ボート免許更新講習会（パシフィコ横浜）

2会場の移動：パシフィコ横浜と横浜ベイサイドマリーナ間には無料シャトルバスとシャトルボート（有料）が運航されています。

公 式 サイト：
<http://www.marine-jbia.or.jp/boatshow2014/>

JSAF新年会が行われました

1月25日、JSAF新年会が日本スポーツマンクラブ（岸記念体育館）で開催されました。

河野博文 JSAF会長の開会の挨拶を皮切りに、ご来賓の服部真二セイコーホールディング株式会社代表取締役会長兼CEO、稲葉正吉蒲郡市市長からご挨拶をいただきました。

服部さまからは同社の東京五輪からのスポーツ計時の歴史、現在も続く49er級世界選手権の支援のお話などをいただきました。また、大学ヨット部出身の稲葉市長は「五輪・パラリンピックに向けたセーリング強化には蒲郡市を活用してください！市にはセーラーに対する支援策があります」との力強いPRがありました。

その後、マッチレースの紹介、長崎がんばらんば国体、紀の国わかやまリハーサル国体等の紹介につき、エンディングにはスポンサー各社からご提供いただいた商品が当たる抽選会が行われ、およそ1時間半の宴は大盛り上がりでのち散会となりました。（写真／濱谷幸江）



およそ150人のセーラーが集まりました



左：服部真二セイコーホールディング株式会社代表取締役会長兼CEO。右：稲葉正吉蒲郡市市長

武村洋一著「古い旅券」

前号で、JSAFの前事務局長の武村洋一さんの電子書籍「古い旅券—ヨットに親しんで六十余年、あるオールドソルティの追憶」を紹介したが、本書が紙の書籍としても発刊されるようになった。若いセーラーにとっては体験のできないオールドソルティの滋味あふれる経験談が満載の書である。

購入の際は、書店もしくは直接出版元へご注文ください。

価格／1200円＋税
判型／A5判
頁数／本文190頁
発売／3月1日
発行元／株式会社エスアイピー
〒105-0013

港区浜松町2丁目7番19号 KDX浜松町ビル4階
電話：03 (6450) 1463
ファクス：03 (5776) 5935



NOTHING EXCEPT VICTORY

PATTON
HARKEN®

PATTON-HARKEN
Regatta watch

¥198,000 (税別)

www.harken.jp

山口県立光高等学校ヨット部、日本スポーツ賞を受賞!

2013年のスポーツ界で著しい活躍をした選手・団体に贈られる「第63回日本スポーツ賞」(読売新聞社制定)において、山口県立光高等学校ヨット部が「競技団体別最優秀賞」を受賞しました。

2013年ユースセーリング世界選手権(男子420級=19歳以下)で4位に入った小泉維吹・有岡翼チームが所属する同校ヨット部の活躍に対して授与されたものです。

小泉維吹選手は「東京オリンピックを目指して頑張ります!」、そして有岡翼選手は「内村航平選手など、とても有名な方々が受賞するような賞をもらえて、とても嬉しいです。再びこの賞がもらえるように、大学での競技生活も頑張っていきます」と受賞の喜びを語りました。

小泉選手は現在2年生。今年のISAFユースワールドやアジア大会を当面の目標にしています。

有岡選手は3年生。関西学院大学への進学が決まっています。



日本スポーツ賞大賞を受賞した体操の内村選手と記念写真。左から有岡選手、内村航平選手、小泉選手、光高等学校ヨット部の橋本健太郎顧問

第13回 ノルウェーフレンドシップヨットレース大会概要

主催: 社団法人 江の島ヨットクラブ

後援: 駐日ノルウェー王国大使館、日本ノルウェー協会 ほか

開催期日: 4月13日、19日~20日

開催場所: 江の島ヨットハーバー

大会日程:

■レース

●ディンギー部門

オープンクラス (OPクラスを除く)

13日 10時 スタート予定

OP-Aクラス (中・上級対象) 及び OP-Bクラス (初級対象)

19日 10時 スタート予定

20日 9時30分 スタート予定

●クルーザー部門 (含むキールボート)

IRCクラス及びワンデザイン (4艇以上で成立)

19日 11時 スタート予定

20日 9時 スタート予定

オープン (20日のみの参加艇)

20日 9時 スタート予定

■ウェルカムパーティ (EYC ウェットカフェ)

19日 17時30分

■表彰式 & パーティ

20日 15時

問合せ先: 大会事務局 / 社団法人 江の島ヨットクラブ

e-mail: eyc-mail@cityfujisawa.ne.jp

URL: <http://www.enoshima-yc.jp/>

定期表彰式

1月25日、岸記念体育館でJSAF定期表彰式が行われ、下記の方々が表彰されました。

■功労賞

〈伊藤 雅宣さん〉

日本ヨット協会では庶務委員長を務められ、日本ジュニアヨットクラブでは専務理事として永年ジュニア育成に尽力されました。

〈小山 泰彦さん〉

東京都ヨット連盟・関東学生ヨット連盟で活躍され、JSAF理事においては指導者委員長・オリンピック招致委員会にて尽力されました。

〈平久保 長蔵さん〉

青森県セーリング連盟の理事長・会長を歴任され、東北ヨット協会の発足・発展に寄与されました。

〈水谷 益彦さん〉

JSAF統合に理事として尽力され、その後は普及委員長としてセーリングスポーツの普及に大いに貢献されました。

■功績賞

〈中 尚武さん〉

タイ・ブーケットのキングスカップレガッタ、パールレースやノルウェーフレンドシップレースなど、国内外の外洋レースを永年に亘り運営された功績は顕著です。

〈小野 一臣さん〉

ヤマハ発動機にて470級等ディンギーの国内普及に努められ、同時に各地にヨット教室を開設し、愛好者を増やすことに貢献されました。また日本ジュニアヨットクラブでは常務理事としてジュニアの育成にも尽力されました。

■優秀指導者賞

〈竹之内 一昭さん〉

北海道において国体強化・ジュニア育成・指導・普及振興に尽力されました。また、障害者が参加できる大会開催などに尽力されました。

〈宮野 敏行さん〉

北海道においてジュニア育成・指導等、普及振興に尽力されました。また、障害者が参加できる大会開催などに尽力されました。

〈渡邊 健二さん〉

東京においてジュニア育成・国体強化など永年にわたりセーリングの普及振興に尽力されました。

■栄光賞

〈高橋 祐一さん〉

トランスバックヨットレース2013(特定外洋競技)ディビジョン7にて優勝し、日本セーリング界の名誉高揚に大きく貢献されました。

■優秀競技者賞

〈市川 航平さん〉

アジア・パシフィックスチューデントカップ(国際競技大会)にて優勝されました。

〈北田 浩さん〉

トランスバックヨットレース2013(特定外洋競技)ディビジョン7にて2位を獲得されました。

〈平井 昭光さん〉

トランスバックヨットレース2013(特定外洋競技)ディビジョン5にて2位を獲得されました。



受賞されたみなさま

夢にむかって・・・ セーリングのナショナルチームとユースチームを応援します!

ナショナルチーム・ユースチームの海外遠征の手配、
インド洋の楽園 セーシェルへのリゾートツアー、
障害者スポーツの海外派遣、
フランスへの個人語学留学の手配、
業務渡航その他、海外への各種渡航手配を行っております。

株式会社 **グロリア ツアーズ** TEL:03-6661-9080(代表) <http://www.gloria-tours.jp>

Full Speed Ahead

Carrying dreams, Carrying the future

子供たちの未来が輝かしいものであって欲しい。そのために私たちは運び続けます。
ヒトやモノを運ぶことが、夢を運ぶことにつながると信じて。船だからこそできること。
商船三井だからこそ、できることがあります。 www.mol.co.jp

MOL 商船三井

CATCH THE WIND

YAMAHA SAILING CRUISER & DINGHY SERIES



YAMAHA14 SeaHopper II



YAMAHA14 SeaHopper IISR



YAMAHA 470CPG



YAMAHA 26IIEX SH



YAMAHA 30S



YAMAHA 31EX SH



YAMAHA 33S

●お問い合わせは.....
○ディンギーヨット／オクムラボート販売株式会社 〒671-0111 兵庫県姫路市の形町の形2013 tel.0792-54-5630 <http://www.okumuraboat.co.jp>
○クルザーヨット／ニュージャパンヨット株式会社 〒421-0502 静岡県牧之原市白井7-9 tel.0548-54-0221 <http://www.njy.co.jp>



Performance perfected

ノースセールのセールが世界的なグランプリレースからクラブレースまで、好成績を納めているのには理由があります。

ノースセールは他のあらゆるセールメーカーよりもレーシングセールの研究開発に人材と時間を割いています。

その結果、アップウィンドセール、ダウンウィンドセールともに、優れた性能を発揮し、トリムのしやすさ、さらに耐久性をも兼ね備えています。

ノースセールを選ぶことが、レースに向けた最善の準備となるでしょう。



Faster by Design

本社・横浜ロフト 045-770-5666

関西ロフト 0798-26-7771

北海道ロフト 0134-25-3227

www.jp.northsails.com

TOP: North 3Di™ composite upwind sails on Carkeek HPR 40 Decision. MIDDLE: North 3Di and 3DL upwind sails at Melges 32 Midwinters. BOTTOM: North 3DL upwind sails.

Decision photo by Ingred Abery. Melges 32 photo by Joy Dunigan.



病院部門

北柏リハビリ総合病院(217床)

健診センター

柏健診クリニック
汐留健診クリニック

クリニック部門

西浦眼科
まちや外科内科
梅郷整形外科クリニック(13床)
天宣会睡眠呼吸クリニック

介護老人保健施設部門

梅郷ナーシングセンター(124床)
北柏ナーシングケアセンター(120床)

介護老人福祉施設部門

みゆきの郷(120床)
流山こまぎ安心館(110床)

介護福祉部門

梅郷ナーシング居宅介護支援事業所
北柏リハビリ総合病院居宅介護支援事業所
居宅介護支援センターみゆき
居宅介護支援事業所 こまぎ安心館

訪問看護ステーション

北柏訪問看護ステーション

研究部門

日本成人保健医療問題研究所



〒277-0021 千葉県柏市中央町1-1 TEL 04-7167-6667(代表) www.tensenkai.or.jp

「感謝な心」で
信頼の医療サービス
ご提供いたします



ミズノは2020年の東京招致活動を
応援しています。



うまいぞ、
長尾くん!

名前で
呼ばれ
ちゃった…。
(ドキドキ)



会えるのは、
室伏選手だけじゃない。

21競技、300名以上の有名アスリートが
講師に登録。ミズノのスポーツ振興イベント
「ミズノビクトリークリニック」。

キミも、有名選手に会えるかも! 「ミズノビクトリー
クリニック」は、オリンピックや世界大会など…
さまざまな舞台で活躍したミズノの契約選手や
社員選手を講師に招き、実技の指導や講習、サイン
会やトークショーなど行うイベントです。講師に登録
している選手は21競技300名以上。スポーツは
もっと好きになると、きっと、うまくなるよ。



スポーツの楽しさを伝え、広めています。

開催レポートはこちらから… **Victory Clinic** <http://www.mizuno.co.jp/victoryclinic/mizuno.jp> ☎0120-320-799

国際VHF無線用免許講習会

舵社主催
KAZI マリンスクール
海上特殊無線技士講習会を
10%割引で受講できます

**JSAFメンバー
限定割引**

専用申込書が必要です

お申し込みには、JSAF会員限定の専用申込書が必要です。専用申込書はJSAFホームページからダウンロードするか、KAZIマリンスクールまでお電話でご請求ください。

[お問い合わせ・申込用紙請求先]
JSAF外洋安全委員会ホームページ
jsaf-anzen.jp/1-7-2.html
KAZIマリンスクール
TEL 03-3434-0941

必ず
JSAFメンバー
専用申込書と
お伝え下さい。

お申し込みは、 ファックスで、 JSAFまで

お申し込みには、JSAF会員限定の専用申込書に必要事項をご記入いただき、JSAF外洋安全委員会までFAXにてお申し込み下さい。

[受講申込みFAX送付先]
JSAF外洋安全委員会
FAX 045-544-5813

お支払はカード、 現金書留、 お振込等で

JSAF外洋安全委員会にお申し込み後、KAZIマリンスクールより受付確認の連絡を入れさせていただきます。その際にお支払方法をご指定ください。各種クレジットカード、銀行振込、現金書留でのお支払がご利用いただけます。また、システムKAZI会員の方はシステムKAZI自動引き落としもご利用いただけます。

第2級海上特殊無線技士 軽減コース

[受講料] **29,000円** ▶ **JSAF会員 限定価格 26,100円** (税込)
(免許申請料、教科書代含む)

第2級は国際VHF25WまでとDSCの運用が出来る資格です。軽減コースは第3級からのステップアップコースで、第3級海上特殊無線技士資格を持つ人のみ受講可能です。1日7時間の講習を受講し、終了試験に合格すると資格を取得できます。

第28回 東京 教室 **2014.6.22** (日)
AM9:00-PM7:30

[会場] LMJ 東京研修センター 2F 特大会議室
東京都文京区本郷 1-11-4 小倉ビル (東京ドーム近く)
[定員] 50名 (定員になり次第閉め切らせていただきます)

第29回 大阪 教室 **2014.7.6** (日)
AM9:00-PM7:30

[会場] いずみさの関空マリーナセミナールーム
大阪府泉佐野市りんくう往来北6番地
(いずみさの関空マリーナ共催)
[定員] 50名 (定員になり次第閉め切らせていただきます)

- 最新の講習会日程については、KAZIホームページをご覧ください。
- 各回定員になり次第締切となります。
- 申込書をご送付いただいた場合でもお断りする場合があります。
- 受講料入金時をもって正式申込みとさせていただきます。
- 完全予約・定員締切制のため正式申込み後の日程変更および返金はできません。

第3級海上特殊無線技士

[受講料] **24,000円** ▶ **JSAF会員 限定価格 21,600円** (税込)
(免許申請料、教科書代含む)

国際VHF、5Wまでの運用ができる資格です。1日6時間の講習を受講し、修了試験に合格すると資格を取得できます。どなたでも受講できます。

第40回 名古屋 教室 **2014.3.16** (日)
AM9:00-PM6:30

消費税改定前のため第40回名古屋教室は **20,700円** (税込) で受講できます

[会場] ゼミナールプラザ第6会議室
名古屋市中区正木 3-7-15
[定員] 60名 (定員になり次第閉め切らせていただきます)

第41回 東京 教室 **2014.4.6** (日)
AM9:00-PM6:30

[会場] LMJ 東京研修センター 2F 特大会議室
東京都文京区本郷 1-11-4 小倉ビル (東京ドーム近く)
[定員] 50名 (定員になり次第閉め切らせていただきます)

第42回 大阪 教室 **2014.5.18** (日)
AM9:00-PM6:30

[会場] 此花会館 302、303 号
大阪市此花区西九条 5-4-24
[定員] 50名 (定員になり次第閉め切らせていただきます)

受講申込みFAX送付先
JSAF外洋安全委員会

FAX 045-544-5813

リオデジャネイロ募金寄付・協賛社



関西ヨットクラブ



Vision &
Work
Together!



巴工業株式会社



NAKAMURA



ラジエ工業(株)

環境キャンペーン・協賛社



JFE

YANMAR



TAFCO



テクノヒル株式会社

外洋キャンペーン・協賛社

平成25年度賛助会員



日東ベスト株式会社



トヨタ自動車東日本株式会社
TOYOTA MOTOR EAST JAPAN, INC.

マリンサービス児嶋



ゼニヤ海洋サービス株式会社



ハイ・ファースト産業(株)



YAMAHA

YANMAR



スバル興業(株)
東京夢の島マリーナ



KAZI

エース損害保険(株)



NPO法人福岡セーリング協会

(株)グロリアツアーズ

日本興和損害保険(株)



株式会社宅配



Benesse®



Performance Sailcraft Japan



NO.105

日本から2チームが参加した2014年メルジェス24クラス世界選手権(オーストラリア・ジーロング)。写真の(スリーボンド)が総合10位、もう1チームの(エスプリ)が総合15位及びコリンシアン4位となった (写真/中嶋一茂)

朗報が飛び込んできました。ISAFセーリングワールドカップ第3戦の米国マイアミ大会に参加していたウインドサーフィンRS:X級の富澤慎選手が3位に入りました。過去、このワールドカップでメダルを獲得した日本人選手は470級女子の近藤・田畑組以外にはいません。もちろん男子として初めての快挙です。一方、昨年末のオーストラリア・レーザ級オープン選手権では、ラジアルクラスの土居愛美選手、4.7クラスの安藤夏海選手がそれぞれ女子クラ

スで優勝を果たしました。強風のかの国でのこの成績は、大きな自信につながることでしょう。リオデジャネイロに向けて大きな弾みになりそうです。今年はレーザ-4.7級ワールド、そしてスナイプ級マスターズワールドが日本で開催されます。ロンドン五輪を終えて早2年。リオまであと2年に迫り、ディンギー界は少しずつギアを上げています。さらなる追い風を日本人選手に送りたいと思います。

(柳澤康信/広報委員会委員長)



J-SAILING No.105 平成26年2月25日発行 通巻459号 昭和42年12月25日第三種郵便物認可
発行/公益財団法人日本セーリング連盟広報委員会 〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
電話 03-3481-2357 ファクス 03-3481-0414 E-MAIL head@jsaf.or.jp
発行人/河野博文 編集人/柳澤康信 編集スタッフ/エディター・豊崎謙、フォトグラファー・中嶋一茂、デザイナー・加瀬倫有
定価/300円(JSAF会員は会費に購読料が含まれています)
www.jsaf.or.jp



45 

フォーティファイブ・アール R - shop 渋谷店

東京都渋谷区神宮前 6-19-16 越一ビル 1 階 TEL 03-5468-0045 営業時間 11:30~20:00

www.45rpm.jp

JAPAN AIRLINES



新しい翼で、世界の空へ。



明日の空へ、日本の翼

